

校長室から



夏休み、タブレットが家庭に

岡山市の方針で夏休みには全児童・生徒が学校で使っているタブレットを家庭に持ち帰ることになりました。

夏休みの宿題とは、夏休みのワークや中学校なら各教科から出る何冊ものワークブックを持って帰ることが当たり前でした。

今回は従来のワークとは別にタブレットで写真をとってコメントを付けたり、担任の先生とタブレットでつながったりするタブレットならではの宿題が出ています。

また、タブレットにあるゲーム形式で算数や国語の勉強ができる「すららドリル」を各自で取り組み、その状況を担任の先生が把握するなどの新しいタイプの宿題も出ています。

すでに外国では家庭学習で当たり前になっているタブレットの学習がいよいよ本校にも導入されます。

夏休み前には、担任から接続の方法や「すららドリル」の入り方の指導が行われての導入になります。

個人に見合った課題に取り組むことになるので、その成果が楽しみです。

「太鼓でドン」が復活

7月1日2年ぶりに全児童がそろって田植えをしました。校長の笛の音で後ろに下がり、太鼓の合図で苗を植えます。最初はそろわない植えの瞬間がそろろうようになり、慣れた頃に終わりました。上級生の間に入った下級生がアドバイスを受けながらこわごわ植え付けをしました。太鼓の音でご近所の方も出てこられ、遠くから泥だらけの小学生を温かく見守ってくださっています。実にほのぼのとした光景です。

次は秋の収穫です。徳田伸さんのご厚意で児童の植えた稲は秋まで大切に育てられます。感謝！感謝！

田植えの後、徳田さんと太平洋戦争で亡くなったご家族（お父様とその弟さん）の話になりました。弟さんはまだ結婚もされていなかったとか。それを聞いて私は言葉が出ませんでした。

「今の人は戦場のむごさがわかっていないから、あんなこと（ウクライナ侵攻）をするんじゃない」と徳田さん。徳田さんのお父様とその弟さんも今の角山小の後輩たちの未来をしっかり見守ってくださっているはずです。

